

# CIO Weekly Perspectives

ニューバーガー・バーマン・グループの最高投資責任者(CIO)が、毎週、足元の市場トレンドや投資における考察・見通しをお伝えします。

## 足元の相場はノーマルではありません

David Kupperman ニューバーガー・バーマン・オルタナティブ・インベストメント・マネジメント・チーム 共同責任者

2017年7月11日

今週は David Kupperman をゲストライターに迎え、中央銀行の政策およびパッシブ運用への多額の資金流入が市場のリスク要因となる一方、ヘッジファンドにとっては投資妙味が高まるとの見方を考察します。



4年前FRBが量的緩和縮小(テーパリング)を示唆した際、市場は「痙攣(タントラム)」を起こしました。FRBがバランスシート縮小計画を発表し、他の中央銀行もタカ派的な姿勢を示したことで、ここ2週間ほど、国債市場は「ミニ痙攣」を起こしていますが、量的緩和政策の出口戦略が現実味を帯びてきたようです。

しかしよく考えてみると、実に衝撃的なことです。あれから4年が経過し、量的緩和の規模はいまだに拡大を続けています。2017年5月時点で、中央銀行による資産購入額は既に1.5兆ドルに達し、年末までに3兆ドルを超えるペースで行われています。今年前半に発表された

ブルームバーグの調査によれば、日本銀行は日本のETF資産全体の約2/3を保有しています。スイス国立銀行(SNB)は第1四半期に米国株式800億ドルを購入しています。2008年にFRBが量的緩和を開始した当時には想定されていなかったこの異常事態は、ほとんど世間からの注目を集めていません。

裏を返せば、債券市場でそれほど大きな混乱が生じていないということは驚くべきことではないでしょうか。

## 量的緩和政策の超現実主義およびパッシブへの多額の資金流入

株式市場の静けさはさらに不可解です。なぜなら、量的緩和によって産み出された歪みを、資金流入に基づく巨大な第2波がさらに複雑なものにしているからです。

これらの資金流入は、パッシブ、クオンツ、アルゴリズム、トレンドフォローおよび「スマートベータ」といった裁量余地の少ない運用からきています。JPモルガンは、これらの投資が株式トレーディングの60%近くを占めていると推定しています。モルガン・スタンレーでは1月2月のみで、米国上場ETF市場に約900億ドルの資金流入があったとしており、過去7年間のトレンドから想定される金額の5倍以上の金額です。

SNBによる米アップル保有が量的緩和による超現実主義の象徴であるとするれば、ETFにおけるそれは今年前半、ジュニア・ゴールド・マイナーズ(金鉱小型株ETF)が複数の銘柄で当局の20%保有規則に抵触するほどの規模に達し、意図せず買収提案を引き起こしたことはないでしょうか。

## 激しい揺れ

これらの2つの出来事を考察することで、今日の市場の特徴である超低ボラティリティ、個別銘柄間の低相関、割高なバリュエーション、高まる地政学リスク、コモディティ価格の低迷、イーロード・カーブのフラット化を十分に説明できると思います。当社のCIOらが既にファンダメンタルズに関して考察してきましたが、私は彼らの見解に同意するとともに、オルタナティブ投資に関する考察する価値があると考えます。なぜなら一部でも当社の見解が正しいとすれば、潜在的なリターン分布におけるテールリスクは投資家が考えているよりもずっと発生確率が高いと考えられるからです。

6月中旬以降のハイテクセクターのボラティリティの高まりは、これまでに累積したストレスによる反動だといえるかもしれませんが、ファンダメンタル分析を重視する定性的な運用者が同セクターを割高と判断すると、相対的なバリュエーションで売却するため、セクター内でバリュエーション格差を生み出します。またパッシブ運用、トレンドフォローおよびクオンツ等が同様の投資アイデアをアルゴリズムに組み入れた場合、彼らは非常に相関性の高い取引手法を採用することになります。

それこそが今日のスタイル・ローテーションの特性なのです。市場の暴落が生じていない唯一の理由は、中央銀行の流動性供給が、すべての部品の潤滑油として機能していたためで、これこそが、過剰な流動性供給の排除が重大な帰結をもたらす理由です。

## 「偽のマーケット」

ファサナラ・キャピタル(Fasanara Capital)のフランチェスコ・フィリア(Francesco Filia)は、足元のダイナミクスを時代精神者の格言「偽のマーケット」という言葉で表現しました。実に的確な表現ではないでしょうか。足元の市場が現実的なものに回帰すれば、それは痛みを伴います。痛みを抑制するには、この変化の時期をうまく乗り切り、収益機会として活用可能な戦略が必要です。

ヘッジファンド、その中でも特に、過去株式や債券市場との低相関性を示してきた、株式市場ニュートラル、ボラティリティのアービトラージ、債券アービトラージ戦略などは、この市場の転換を捉え、リターンの獲得が可能と考えています。

ここ2、3年間、ヘッジファンドの人気は低迷していましたが、割高なバリュエーション、市場における低ボラティリティ、個別銘柄間の低相関、テクニカル面からみた価格の歪み等、足元の市場はヘッジファンドにとって稀にみるほど投資機会が豊富に存在しています。特に当局の競争規制により、仕組債などの運用戦略の投資機会が引き続き存在しています。

ここ数年にわたり、メディアを賑わせてきたヘッジファンドですが、今年に入ってからには実に静かです。おそらく、6月末時点で、HFRX グローバル・ヘッジファンド・インデックスの12か月リターンが+6.25%と、極めて堅調に推移していることが理由かもしれません。

これは一面を飾るようなビッグニュースではありませんが、投資家にとって興味深いニュースかもしれません。ヘッジファンドの運用実績は地震計のようなものなのです。足元の市場はノーマルではないのです。ストレスが確実に累積してきています。

■ **過去の CIO Weekly Perspectives はこちら。**

■ **Neuberger Berman ウェブサイト [www.nb.com/japan](http://www.nb.com/japan)**

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、法的、税・会計上または投資のご提案のためのものではなく、また個別の有価証券等の勧誘等を目的とするものでもありません。当資料は正式なリサーチ・レポートではありません。従って当資料は投資判断を行うにあたり依拠されるべきではありません。当社グループ、その従業員及び当社グループが投資助言を提供する顧客は当資料にて言及されるセクターに属する企業の有価証券等を保有する場合があります。当資料は、作成時点において信頼できるとされる情報に基づき作成されていますが、かかる情報(第三者からの情報を含む)のいずれについてもその公正性、正確性、信頼性、完全性および妥当性について、明示または黙示を問わず表明または保証するものではありません。当資料に含まれる意見や見通しについては作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。当資料中の見通しや意見については、必ずしもニューバナー・バーマンとしての統一見解ではない場合があります。ご注意ください。当資料に記載する商品または運用戦略が、すべての投資家に適合するものではありません。当資料は予想、見込み、見通し、その他の「将来予測に関する記述(Forward-looking statements)」を含みます。様々な要因により、実際に生起する事象は当資料に記載されているものと大幅に異なる場合があります。投資はリスクを伴い、元本の毀損を伴います。過去の実績は将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

本資料は、当社グループが作成した資料をもとに当社が翻訳・作成した資料であり、必ずしも原文の内容と一致するものではなく、また、その正確性、完全性及び信頼性を保証するものではありません。当資料の複写、転載及び第三者への提供については、当社の同意なくこれを行うことは固くお断りいたします。

#### 手数料等について

投資一任契約に基づく運用報酬: 投資一任契約に基づく運用報酬として、受託資産の時価総額に対して年率1.00%(税抜き)を上限とする金額が徴収され、これとは別に成功報酬(ない場合もあります)、受託銀行に対する報酬等の費用が徴収されます。また、当資料において記載される戦略は、投資家の利益に資すると当社が判断した場合には、同様の戦略を有するファンドを組み入れることを通じて提供される場合があります。その場合、組入れを行うファンドにおいて以下のような報酬等が別途徴収されます。運用報酬料率: 運用報酬料率は、運用戦略、運用資産額、投資スキーム等に基づく商品の内容及び成功報酬の徴収の有無等により、商品毎又は契約毎に異なりますが、一般的な運用報酬料率の上限は、運用資産の時価総額に対して2.0%となります。ただし、その他の諸条件を踏まえ、個別案件や投資金額毎に異なりますので、詳細を表示することはできません。

成功報酬料率: 成功報酬の徴収の有無及びその料率は、運用戦略、運用資産額、投資スキーム等に基づく商品の内容等により、商品毎又は契約毎に異なりますが、一般的な成功報酬料率の上限は運用資産の超過収益に対して20%となります。ただし、その他の諸条件を踏まえ、個別案件毎に異なりますので、詳細を表示することはできません。

その他費用等: 商品の種類、スキーム等により各種費用(経費、運営費用、ファイナンス・コスト、組成費用、取引手数料等)が発生しますが、これら諸費用は運用状況及び資産規模等により異なりますので、詳細を表示することはできません。

上記の投資一任契約及び組入れファンドに関して徴収される報酬及び諸費用の合計は、戦略、運用状況及び資産規模等により異なりますので、その総額や上限等について、あらかじめ表示することはできません。

#### 投資リスクについて

投資一任契約に基づき投資を行う投資運用商品には、投資信託、株式、債券、為替、先物、デリバティブ等、各種金融資産が含まれますので、各市場等における相場その他の指標に係る変動等の影響により投資価値が下落し、損失を被ることがあります。外貨建資産への投資は、為替変動により損失を被るリスクを伴います。投資運用商品は、投資元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。投資信託、外国籍リミテッド・パートナーシップ等のファンドに投資する場合、投資するファンドの種類により投資リスクは異なりますが、主なリスクとして、価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク、為替リスク、金利リスク、デリバティブ・リスクなどがあります。また、受託資産の運用に関してデリバティブ取引等を利用する場合は、受託資産から委託証拠金その他の保証金(以下総称して「証拠金」と言います)を預託する場合がありますが、当該取引等にかかる想定元本の額が証拠金の額を上回る可能性があるとともに、当該取引の対象となる有価証券の価格、利率又は参照する指標等の変動による損失の額が証拠金の額を上回ることにより、証拠金を上回る損失が生じ結果として元本を上回る損失を蒙る可能性があります。なお、デリバティブ取引等の証拠金に対する比率は、取引毎の具体的な条件に応じて決定されるため、予め算出することはできません。

債券、バンクローン、モーゲージ証券、メザニン債等への投資について: これらの商品の価値は金利、市場環境、信用状況その他の要因により変動します。償還前に債券を売却した場合、売却による利益又は損失が発生する場合があります。また利子についても何らかの課税の対象となる場合があります。ハイ・イールド債券(「ジャンク債」)、バンクローン(優先担保及び劣後担保のものを含む)、非政府系モーゲージ証券、メザニン債等に対する投資は一般的に投機的な投資であり、投資適格債に対する投資と比較してより大きなデフォルトリスクを伴います。こうした商品の市場価格は、金利、市場環境、信用状況、政治、通貨の切り下げその他の要因により変動する場合があります。投資適格債と比較してよりその変動幅が大きくなります。従って、これらの商品に対する投資はすべての投資家に適合するものではなく、投資に当たっては潜在的なリスク及びリターンの特性を十分ご理解のうえご検討ください。

株式への投資について: 大型株への投資の場合であっても、株式投資に関するあらゆるリスクを伴います。かかるリスクには、全般的な市場或いは経済状況により株式価値が毀損されるリスクを含みます。中・小型株式への投資の場合は、財務及びその他のリスクに関し、大型株と比較してより影響を受けやすい傾向にあり、また、取引量が大型株と比較して限定的であること等から、市場価格の変動はより大きくなる傾向があります。

外国有価証券及び外貨建て有価証券への投資について: これらの商品に対する投資については、為替の変動や政治経済の情勢といったリスクを伴い、投資資産の価値及び配当が影響を受けることがあり、投資元本を割り込む可能性もあります。また、新興国への投資については、先進国への投資に比べて市場規模や流動性等の観点から価格変動が大きくなる傾向があるなど、より大きな損失を被る場合があります。加えて、新興国における経済は一般的に規制が十分でなく、貿易障壁、為替管理、保護主義的政策及び政治的・社会的な不安定性により悪影響を受ける可能性があります。流動性が低い場合や信頼できる情報が利用できない場合には変動性が高くなるリスクがあります。

ヘッジファンドやプライベート・エクイティ・ファンド等のオルタナティブ投資について: ヘッジファンドやプライベート・エクイティ・ファンド等のオルタナティブ投資は投機的な投資であり、高いリスクを伴います。ファンドは、レバレッジの高いキャピタル・ストラクチャー商品への投資を通じて、レバレッジをかけることがあります(レバレッジは高い金利リスクを伴い、金利上昇や景気後退、原資産の減少といった要因に対し、投資資産のエクスポージャーが増加することがあります)。これらのリスク要因の影響を受けて、ファンドの運用実績は大きく変動することがあり、結果的に投資元本の全部又は大部分を失うことがあります。

プライベート・エクイティ・ファンドの組入れを行う場合について: プライベート・エクイティ・ファンドの場合、一旦ファンドへの出資を行うと中途解約は原則として認められず、またファンドの持分には通常譲渡制限が付されているため流通市場はなく、今後も整備される見込みはありません。従って、中途換金は非常に困難であり、流動性は殆ど存在しません。また、ファンドで徴収される報酬及び費用の発生により、費用控除後の実現利回りが大きく低下することがあります。更に、これらの報酬及び費用の発生によって、投資家に返還される金額が拠出総額を下回る可能性があります。なお、当資料に記載する戦略をファンドの組入れを通じて提供す

る場合、当該ファンドに係る条件等の詳細については今後関係者の承認を経て正式決定される場合があり、その場合当資料中に記載された内容が予告なく変更され、またかかる状況において新たなリスクが発生することもあります。

#### 適合性原則について

当資料でご紹介する戦略がすべての投資家に適合することを保証するものではありません。当社は、金融商品取引法等の法令・諸規則等に従い、投資家の知識、投資経験、財産の状況、投資一任契約を締結する目的その他の個別の事情等を踏まえたうえで、個別戦略の正式なご提案をさせていただくこととしております。なお、投資家の知識、投資経験、財産の状況、投資一任契約を締結する目的その他の個別の事情等を確認した結果、当社の判断により一定の戦略のご提案を行わない場合や、投資家からの戦略提案のご要望に応じることができない場合があることをご了承ください。また、かかる場合に代替的な戦略のご提案をさせていただく場合もございますが、常にそのようなご提案を行うことを保証するものではありません。

また、正式な戦略のご提案以降であっても、投資家の財産の状況や規制環境の変化、その他個別の事情等に照らして当社が必要と判断する場合には、当初の提案を随時見直す可能性があります。厚生年金基金である投資家に対するご提案に当たっては、運用指針(及び、場合によっては運用の基本方針)等を確認させていただく他、必要に応じて情報を提供させていただくこともあわせてご了承ください。

ニューバーガー・バーマン株式会社

Neuberger Berman East Asia Limited

〒100-6512 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2094号

加入協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会